



埼玉県のマスコット コバトン

埼玉県 獣医師会 会報

第736号

令和7年2月20日編集

発行所

公益社団法人 埼玉県獣医師会

〒330-0835 さいたま市大宮区北袋町1-340
(埼玉県農業共済会館内)

電話 048(645)1906

FAX 048(648)1865

E-mail : s-vma@vesta.ocn.ne.jp

URL : <https://www.saitama-vma.org/>

振替口座 00110-9-195954番

発行責任者 中村 滋

編集責任者 高橋 一成

印刷所 (株)アサヒコミュニケーションズ

記事の内容

第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会
(令和6年度)開催される……………1

令和6年度集合狂犬病予防注射実施者講習会
を開催……………4

令和6年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会開
催される……………5

中村会長が開業部会各支部新年会に出席…8

令和7年埼玉県医師会新年会に出席…………9

会務報告

第2回狂犬病予防委員会……………10

ひろば

埼玉県獣医師会学術講習会(さいたま市支部担当)
開催報告……………11

お知らせ

日本獣医師会からのお知らせ……………12

埼玉県獣医師会学術広報版……………15

事務局より

事務局メモ……………16

編集後記……………18

公益社団法人 埼玉県獣医師会 会員憲章

わたくしたち埼玉県獣医師会会員は、それぞれの職域において、その責務を遂行し、県民の福祉増進に寄与するため、ここに会員憲章を定めま

す。

わたくしたち埼玉県獣医師会会員は

1. 動物の生命を守り、ひとびとの生活を豊かにしよう
1. 獣医学術を研鑽向上し、確信を持って業務に邁進しよう
1. 動物愛護思想を向上し、心豊かな生活をしよう
1. 環境衛生を向上し、福祉増進の実をあげよう
1. 職域を尊重し、倫理の昂揚をはかろう

第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (令和6年度) 開催される

日本獣医師会主催の令和6年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会が、宮城県仙台市で次のとおり開催されました。

日 程 令和7年月1月24(金)から26日(日)までの3日間

会 場 仙台国際センター(宮城県仙台市青葉区青葉山)



会場全景



会場入口

1 主なプログラム

(1) 地区学会長賞受賞講演

全国9ブロックの獣医学術地区学会で地区学会長賞を受賞した研究演題が発表されました。

埼玉県からは関東・東京合同地区学会長賞を受賞した埼玉県農業技術研究センターの中村嘉之先生(農林支部)が「豚凍結授精卵を用いた遺伝的希少品種の群再構築手法の開発」を発表しました。



発表する中村嘉之先生



左から 中村滋会長、中村嘉之先生

各学会での発表演題数などは次のとおりです。

ア 日本産業動物獣医学会

発表演題数 17題

学会長 佐藤 繁 岩手大学農学部教授

イ 日本小動物獣医学会

発表演題数 18題

学会長 佐藤れえ子 岩手大学農学部教授

ウ 日本獣医公衆衛生学会

発表演題数 10題

学会長 丸山総一 日本大学生物資源科学部教授

《日本獣医師会獣医学術奨励賞受賞者一覧》

それぞれの学会で獣医学術奨励賞、獣医学術学会賞、獣医学術厚労省を受賞した講演は次のとおりです。

【産業動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

牛伝染性リンパ腫ウイルスpol遺伝子を標的としたプロウイルス量に基づく伝播リスク分類基準の設定：森朝美(農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門)、他

〔獣医学術学会賞〕

黒毛和種子牛の呼吸器病における初診時の胸部超音波検査によるスコア化と呼吸器症状及び発育との関係：叶有斗(鹿児島県農業共済組合)、他

〔獣医学術功労賞〕

黒毛和種牛における代謝性疾患の防除に関する研究：片本宏(元宮崎大学・教授)

【小動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

僧帽弁粘液腫様変性犬における椎体長に依存しない心サイズの評価法に関する検討：才田祐人(矢田獣医科病院・石川県)、他

〔獣医学術学会賞〕

犬における喉頭蓋後傾の病態、病理組織学検査および喉頭蓋切除に関する考察：木村一気(AMC末松どうぶつ病院)、他

〔獣医学術功労賞〕

小動物分野における麻酔ならびに行動学に関する実践的研究：武部正美(武部獣医科医院・院長)

【公衆衛生部門】

〔獣医学術奨励賞〕

と畜検査で発見された慢性型豚丹毒と生ワクチンの関連：大野祐太(北海道立衛生研究所)、他

〔獣医学術学会賞〕

行政施設を活用した猫のスパイククリニック開設に向けて～にゃんがたセンタークリニック猫の不妊手術専門病院～：星野勇矢(新潟市動物愛護センター)、他

〔獣医学術功労賞〕

環境汚染モニタリングのための生物学的指標、及びListeria属菌に係る衛生対策に関する研究：植田富貴子(日本獣医生命科学大学・名誉教授)

(2) シンポジウム

「令和6年能登半島地震に係る動物救護対策と全国各地における災害対策への取組み」をはじめ、小動物、産業動物、公衆衛生の各分野はもとより、幅広い分野で数多くのシンポジウムが開催されました。

(3) 市民公開シンポジウム

市民に公開されたプログラムは以下のとおりでした。

「犬との共生が人にもたらす健康効果 ～ワンヘルスの視点から見る犬と人の関係～」

「すべての獣医師が活躍できる未来ある職場づくりのために」

(4) 教育講演・一般口演など

この他、各種の教育講演が行われたほか、各学会の一般口演や展示協賛企業が主催するランチョンセミナーが行われました。

2 歓迎交流会

1月25日(土)の午後6時から、会議棟2階 展示・レセプションホール「桜」において歓迎交流会が

開催されました。まず、主催者を代表して藏内勇夫日本獣医師会会長が挨拶したあと、来賓の有村治子参議院議員、郡和子仙台市長、小林徳光宮城県副知事、茂松茂人日本医師会副会長の挨拶に続き、仙台市獣医師会小野裕之会長の乾杯の発声により懇親に入りました。

歓迎交流会には、全国の獣医師会会員を始め、各学会の運営委員や行政機関の方々などが多数参加し、和やかな雰囲気のなかで交流を深めておりました。



主催者挨拶をする藏内勇夫日本獣医師会会長



左から 大橋邦啓副会長、小野裕之仙台市獣医師会会長、中村滋会長、藏内勇夫日本獣医師会会長、砂原和文日本獣医師会副会長、宗像俊太郎副会長

なお、今後の年次大会の開催予定は、次のとおりです。引き続き、会員の先生方の御協力をお願いします。

第43回日本獣医師会獣医学術学会年次大会(令和7年度)

開催地 東京国際フォーラム(東京都千代田区)

期 日 令和8年4月21日(火)～24日(金) 第41回世界獣医師大会開催期間中に開催される予定

令和6年度集合狂犬病予防注射実施者講習会を開催

令和7年1月29日(水)午後1時45分から、レイボックホール(さいたま市民会館おおみや)大ホールにおいて「令和6年度集合狂犬病予防注射実施者講習会」を開催しました。

この講習会は、埼玉県獣医師会が市町村との契約に基づき実施している集合狂犬病予防注射を的確に実施するために開催するもので、「集合狂犬病予防注射実施要領」及び「同細部要領」に定められている教育研修に位置付けられております。

今回は、集合狂犬病予防注射実施予定者をはじめとする約300名の方々にご参加いただきました。



会場となったレイボックホール 大ホール



挨拶をする中村滋会長

開会

小田匡史狂犬病予防委員会副委員長の司会により進行され、大橋邦啓副会長の開会のあと、中村滋会長の挨拶に続き、来賓の高橋三男名誉会長が紹介されました。

講演

今回は「狂犬病の課題(脅威と準備) / 演習のすすめ」と題して、国立感染症研究所 主任研究官 井上智先生に講演していただきました。

注意事項

青山利雄狂犬病予防委員長の注意事項では、注射会場でアナフィラキシーが起こった場合には、令和元年度の集合狂犬病予防注射実施者講習会においてTRVA夜間救急動物医療センターの中村篤史先生が紹介された「アナフィラキシーかと思ったら一蘇生のために3ステップ」に基づいた処置が直ちにできるように事前準備をしておくよう指示がありました。

閉会

宗俊俊太郎副会長が閉会の辞を述べ、午後3時10分に閉会となりました。



来賓の高橋三男名誉会長



講演する井上智先生

令和6年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会開催される

令和7年1月17日(金)午前10時から、さいたま市の「埼玉教育会館」において、令和6年度埼玉県家畜保健衛生業績発表会が開催されました。

この発表会は、家畜衛生及び家畜管理技術の改善向上に資することを目的に埼玉県農林部が毎年度、開催しているもので、農林部の獣医・畜産関係職員や埼玉県獣医師会等の関係者約50名が参加して、県関係機関が実施した事業や調査研究等に関する成果発表と活発な討議が行なわれました。

1 開会

発表会は、清水博之畜産安全課主幹の司会で進行し、野澤裕子埼玉県食品衛生安全局長の主催者挨拶に続き、来賓の公益社団法人埼玉県獣医師会中村滋会長が挨拶をしました。その後、助言講師及び来賓の方々が紹介されました。助言講師は、埼玉県獣医師会の大橋邦啓副会長、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門の舛甚賢太郎海外病グループ長補佐、日本生物科学研究所の平修次長、埼玉県農業技術研究センター小林努副所長、埼玉県川越家畜保健衛生所の伊藤麗子所長の5名の先生方が出席しました。



主催者挨拶をする
野澤裕子食品衛生安全局長(衛生支部)



来賓挨拶をする中村滋会長



助言講師の先生方

前列左から 大橋邦啓副会長、舛甚賢太郎動物衛生研究部門グループ長補佐、平修日生研次長
後列左から 中村滋会長、伊藤麗子川越家畜保健衛生所長、小林努農業技術研究センター副所長

2 発表・討議

発表は3部で構成され、第1部が「家畜保健衛生所の運営及び家畜保健衛生所の企画推進に関する業務」に関するもので6題の発表がありました。また、第2部の「家畜保健衛生所及び病性鑑定施設における家畜の保健衛生に関する試験及び調査成績」は5題、第3部の「家畜保健衛生所以外の畜産関係機関における試験、研究、調査成績」は2題で、合計13演題が発表されました。

それぞれの発表終了後には、大橋副会長をはじめとする各助言講師から、熱心な質問や助言があり、活発な討議が行なわれました。

3 審査結果発表

発表終了後、別室において助言講師による審査会が行われ、埼玉県代表と埼玉県獣医師会会長賞が選考されました。

審査会終了後、助言講師を代表して舩甚賢太郎海外病グループ長補佐から、埼玉県代表として関東甲信越ブロック業績発表会に提出される演題の発表と講評がありました。

埼玉県代表演題

第1部

野生いのししのアフリカ豚熱陽性確認時に係る通行制限等の実施方法の検討(川越家畜保健衛生所 高橋友希 ほか)

初動防疫対応における農場内360度動画の有用性の検討(熊谷家畜保健衛生所 木下 眞大樹 ほか)

第2部

接種開始から5年が経過した埼玉県における繁殖豚の豚熱ワクチン抗体価分布解析(中央家畜保健衛生所 小泉 舜史郎)

続いて、大橋邦啓副会長が講評を述べて埼玉県獣医師会会長賞の受賞者を発表しました。

埼玉県獣医師会会長賞受賞演題

第1部

耕畜連携により酪農経営の課題解決を目指した一例(熊谷家畜保健衛生所 小野塚 泉 ほか)

第2部

死亡・廃用が多発した酪農場での血液生化学検査実施事例について(中央家畜保健衛生所 安井 杏菜 ほか)

第3部

当牧場で確認された牛伝染性リンパ腫陽性牛と今後の管理体制について(秩父高原牧場 留場 寛子 ほか)



講評を行う大橋邦啓副会長



獣医師会会長賞を授与する中村滋会長

4 表彰及び閉会

審査結果の発表後、関東甲信越ブロック業績発表会への埼玉県代表に選出された3名には野澤裕子産安全課長から、また、埼玉県獣医師会長賞に選出された3名については、中村滋会長から表彰状が授与され、午後4時30分に閉会となりました。



埼玉県代表及び埼玉県獣医師会長賞の受賞者を囲んで
 前列左から 小野塚泉先生、岡志保先生(安井杏菜先生の代理発表者)、留場寛子先生
 中列左から 小泉舜史郎先生、木下眞大樹先生、高橋友希先生
 後列左から 小林努副所長、伊藤麗子所長、野澤裕子局長、中村滋会長、大橋邦啓副会長
 平修次長、舛甚賢太郎グループ長補佐

令和7年埼玉県医師会新年会に出席

令和7年2月1日(土)午後6時から、パレスホテル大宮で開催された令和7年埼玉県医師会新年会に中村滋埼玉県獣医師会会長、高橋三男埼玉県獣医師連盟理事長が保健医療関連団体長として参加いたしました。

新年会には、国会議員や県議会議員、市町村長など多くのご来賓が招かれるなか、医師会会員をはじめ医療関連団体など500名を越す方々が出席しました。

主催者の金井忠男埼玉県医師会会長の挨拶と来賓代表の大野元裕埼玉県知事、釜菴敏日本医師会副会長の挨拶に続いて行われた「鏡開き」には保険医療関係団体長として中村会長も登壇するなど、盛大な新年会となりました。



金井忠男埼玉県医師会会長による主催者挨拶



鏡開きに中村滋会長が登壇
中村滋会長(中央)と各保健医療関連団体長

狂犬病や高病原性鳥インフルエンザをはじめとする多くの人と動物の共通感染症の流行制御への関心や、食品の安全性確保に関する意識が高まる中、医師と獣医師が緊密に連携し、安全で安心な社会を構築することが求められ、平成25年12月に「公益社団法人日本医師会と公益社団法人日本獣医師会の学術協力に関する協定書」が締結され、翌年10月には「一般社団法人埼玉県医師会と公益社団法人埼玉県獣医師会の学術協力の推進に関する協定書」を締結しました。その後、全国の地方獣医師会が同様の協定を締結しています。また、令和4年11月には福岡県"One Health"国際フォーラム2022+FAVAが福岡県福岡市で開催されるなど、獣医師会と医師会の連携が益々強まる中、埼玉県医師会や関連団体との交流を深めることができました。

会務報告

第2回狂犬病予防委員会

令和7年1月29日(水)午前11時から、さいたま市のレイボックスホール集会室3において開催し、次の事項を審議した。

1 協議事項

- (1) 令和6年度集合狂犬病予防注射実施者講習会の開催について
実施者講習会の受付け及び進行手順について協議し、決定した。
- (2) 令和7年度埼玉県獣医師会集合狂犬病予防注射実施スケジュール(案)について
集合狂犬病予防注射実施スケジュールについて協議し、決定した。
- (3) その他
なし

広告

人が食べるものと同じだけ安全で
美味しいものを愛犬にも与えたい。

ドクタークレド

Dr. CREDO

胃腸と皮膚が気になる

成犬用 総合栄養食

No.1

血流と健康が気になる

中・高齢犬用 総合栄養食

No.2

体重と健康が気になる

成犬用 総合栄養食

No.3

美味しさに
自信

ドクターイデア

Dr. IDEA

こだわりの国産品。

いつでも新鮮! 小分けパック。

下部尿路に

No.1

体重管理に

No.2

7歳から

No.3

愛犬・愛猫のトータルサポートフード

着色料不使用

自然派由来の酸化防止剤

森久保CAメディカル株式会社

神奈川：046-206-5713 山梨：055-287-8622 東京：042-564-2381 埼玉：04-2968-0881
三郷：048-948-2112 茨城：0296-54-6101 千葉：043-309-5430

ひろば

埼玉県獣医師会学術講習会(さいたま市支部担当)開催報告

さいたま市支部長 大澤 健
 学術委員会委員長 宗像俊太郎
 さいたま市支部学術委員 滝沢 直樹

令和7年1月26日(日)さいたま市支部では、日本エキゾチック動物医療センターの三輪恭嗣先生に「学校飼育動物におけるウサギの診療」と題して本年度二回目の対面講義をしていただきました。

今回の講義は前回に続き、消化器・生殖器、泌尿器、骨角系について講義をしていただきました。犬猫とは異なるウサギ特異の解剖生理の解説後、消化管うっ滞、子宮腺癌、骨折といった多発性疾患の診断、治療方法について症例を交えてお話していただきました。

参加者からは鎮静方法についてなど活発な質問がありました。

<参加者内訳>

出席者	さいたま市支部	南支部	西支部	北支部	東支部	団体支部	会員外
26名	22名	1名	0名	0名	0名	3名	0名

広告

伝わる
 大反響
 デザイン

NO RESPONSE, NO DESIGN!

0

株式会社アサヒコミュニケーションズ

本社・工場 / 〒365-0038 埼玉県鴻巣市本町 4-3-23 TEL.048-541-5152



おしらせ

6日獣発第310号
令和6年1月21日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
会長 藏内勇夫
(公印及び契印の押印は省略)

「狂犬病予防注射普及啓発ポスター」の送付について

平素より狂犬病予防事業についてご指導、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本会では、国及び自治体が行う狂犬病予防に関する施策に協力し、犬の登録及び狂犬病予防注射の重要性等に関する普及・啓発活動を実施しております。その一環として、毎年、厚生労働省のご協力の下で標記ポスターを製作しているところです。

狂犬病予防対策については、平成19年3月2日付け健発第0302001号により厚生労働省健康局長から、都道府県知事及び政令市市長並びに特別区区长あてに、獣医師会と連携・協力し、飼育犬の登録と予防注射の徹底を図る必要がある旨の通知がなされ（平成19年3月2日付け18日獣発第244号にて地方会通知済）、獣医師会と自治体との間で地域ネットワーク体制の整備が図られてきたところです。貴会においても、今後とも公衆衛生の向上等を目的とする国の施策と密接に係る公益性の高い事業として位置づけ、更なる積極的な事業運営に当たられたくお願いいたします。

つきましては、本ポスター（令和7年度版）は2月3日頃を目途にお送りしますので、貴会会員へ予防対策の普及・啓発のために配布いただきたくお願い申し上げます。

なお、ポスターの大きさはA3サイズで製作していることを申し添えます。

6日獣発第312号
令和7年1月28日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
会長 藏内勇夫
(公印及び契印の押印は省略)

第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会 開催のお礼

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本年1月24日（金）から26日（日）までの3日間、仙台国際センタ一において開催いたしました「第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会」につきましては、貴会の多大なるご協力をいただき盛会裏に終了することができました。これも偏に貴会関係各位のご理解とご協力の賜物と感謝申し上げます。

また本年次大会では、公益社団法人日本医師会との連携により開催したシンポジウム「人・動物におけるカビが関わる疾病」や、市民公開プログラムをはじめ、教育講演等々、数多くのプログラム、歓迎交流会など全ての行事を盛大かつ滞りなく執り行うことができ、大変有意義であったと考えております。

ここに改めて、衷心より厚く感謝申しあげ、略儀ながら書中をもってお礼に代えさせていただきます。

※開業部会会員にポスターを同封しました。

6日獣発第214号
令和7年2月7日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
会長 藏内 勇夫
(公印及び契印の押印は省略)

「肉牛農場管理認定獣医師 高度専門的・実践的研修会」の開催について

平素から本会事業へのご理解とご協力をいただきまして厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年12月、宮崎大学のご協力をいただき「乳牛農場管理認定獣医師 高度専門的・実践的研修会」を開催いたしました。このたびは同大学のご協力をいただき「肉牛農場管理認定獣医師」に係る研修会を令和7年3月17日(月)～19日(水)の3日間開催することといたしました。

講義・実習等を対面形式で行うために参加人数がありますが、本研修会につきましても日本中央競馬会の助成により受講料は「無料」でご参加いただくことができますので、関係会員獣医師への周知をいたしますとともに、参加を希望される場合には令和7年3月7日(金)までにメールにてお申込みいただくよう併せてご案内いただきたく、ご協力の程、よろしくお願いたします。

- ※ 研修の内容や申込方法等は別添のとおりです。
- ※ 旅費交通費・宿泊費の支給はありません。

本件に関する問合せ
日本獣医師会事務局 (担当：守尾)
E-mail: fmw@j-vet.jp
Tel: 03-3475-1601

6日獣発第214号
令和7年2月10日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
会長 藏内 勇夫
(公印及び契印の押印は省略)

「豚農場管理認定獣医師 高度専門的・実践的研修会」の開催について

平素から本会事業へのご理解とご協力をいただきまして厚く御礼を申し上げます。

さてこのたびは岩手大学のご協力をいただき、令和7年3月17日(月)～19日(水)の3日間、豚の「農場管理認定獣医師 高度専門的・実践的研修会」を岩手大学において開催することといたしました。

本研修会につきましても、講義・実習等を対面形式で行うために参加人数に限りがありますが、日本中央競馬会の助成により受講料は「無料」でご参加いただくことができますので、関係会員獣医師への周知を願いたしますとともに、参加を希望される場合には令和7年3月7日(金)までにメールにてお申込みいただくよう併せてご案内いただきたく、ご協力の程、よろしくお願いたします。

- ※ 研修の内容や申込方法等は別添のとおりです。
- ※ 旅費交通費・宿泊費の支給はありません。

本件に関する問合せ
日本獣医師会事務局 (担当：守尾)
E-mail: fmw@j-vet.jp
Tel: 03-3475-1601

6 日 獣 発 第 331 号
 令 和 7 年 2 月 13 日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
 会 長 藏 内 勇 夫
 (公印及び契印の押印は省略)

春先に向けた吸血昆虫対策の強化について

このことについて、令和7年2月7日付け6消安第6558号により農林水産省消費・安全局動物衛生課長から別紙のとおり通知がありました。

このたびの通知は、昨年11月に我が国において初めてランピースキン病（以下「本病」という。）の発生が確認されたことを踏まえ、本病を媒介する吸血昆虫が活発となる春先以降に本病が再流行するリスクを最小限とするため、特に今講ずべき対策について、周知及び指導を依頼されたものです。

つきましては、貴会会員に通知方よろしくお願い致します。

※別紙省略

6 日 獣 発 第 332 号
 令 和 7 年 2 月 13 日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
 会 長 藏 内 勇 夫
 (公印及び契印の押印は省略)

ランピースキン病に関するQ&Aの改訂について

このことについて、令和7年2月7日付け事務連絡により農林水産省消費・安全局動物衛生課長から別紙のとおり通知がありました。

このたびの通知は、昨年11月に我が国において初めてランピースキン病（以下「本病」という。）の発生が確認されたことを受け、農林水産省がウェブサイトで公開してきた本病に関するQ&Aについて、関係者への情報提供を強化するため、追記・更新を行ったことについて、周知を依頼されたものです。

つきましては、貴会会員に通知方よろしくお願い致します。

(掲載先)

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/attach/pdf/lisd-96.pdf>

※別紙省略

令和6年度埼玉県獣医師会学術広報版

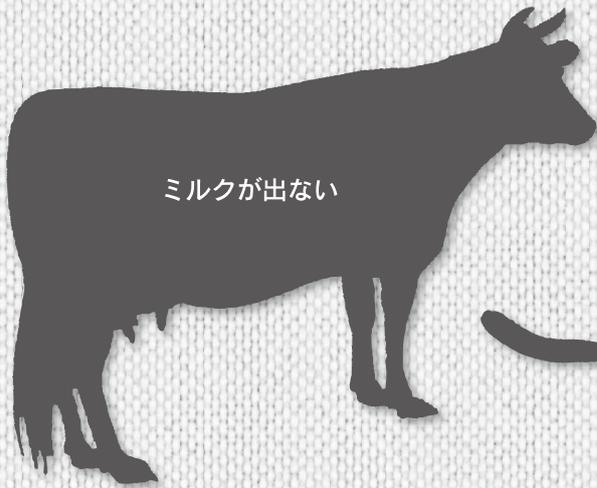
(令和7年2月20日現在)

年月日	産業動物	小動物	公衆衛生
4月			
5月			
6月			
7月28日(日)		さいたま市 「学校飼育動物におけるウサギの診療」 日本エキゾチック動物医療センター 三輪恭嗣 先生 (さいたま市 With Youさいたま)	
8月16日(金)		南支部 「猫の呼吸器疾患」 日本獣医生命科学大学 藤原亜紀 先生 【Zoomにて開催】	
9月1日(日)	令和6年度 関東・東京合同地区獣医師大会(群馬) 獣医学術関東・東京合同地区学会 (高崎市 Gメッセ群馬)		
10月23日(水)	北支部 「スイス、ヨーロッパの酪農、 畜産、家畜の診療」 「我が国におけるAMR(薬剤耐性)対策および診療の現状と正しい薬の使い方」 宮崎大学 佐藤礼一郎 先生 (熊谷市 熊谷家畜保健衛生所)		
11月			
12月			
令和7年 1月12日(日)		南支部 「来院数TOP3から学ぶ救急診療」 TRVA動物医療センター 塗木 貴臣 先生 (さいたま市 TKP大宮ビジネスセンター)	
1月24日(金) ~1月26日(日)	令和6年度 日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (仙台市 仙台国際センター)		
1月26日(日)		さいたま市支部 「学校飼育動物におけるウサギの診療2」 日本エキゾチック動物医療センター 三輪恭嗣 先生 (さいたま市 With Youさいたま)	
1月17日(金)	農林支部 令和6年度埼玉県家畜保健衛生 生業績発表会 (さいたま市 埼玉教育会館)		
2月			衛生支部 健康福祉研究発表会 食肉衛生技術研修会
2月16日(日)		西支部 「心臓外科 僧帽弁閉鎖不全症を中心とした手術の実際と診断」 動物心臓外科センター 菅野 信之 先生 (川越市 川越市南文化会館)	
2月19日(水)		北支部 「臨床現場でのあたまたの使い方！臨床推論 オーバービュー」 QUARC動物病院 石川 勇一 先生 【Zoomにて開催】	
2月23日(日)		東支部 「避妊・去勢手術の麻酔+ α ~麻酔モニター とピットフォールを中心に手術手技を学び 直そう~」 どうぶつの総合病院 浅川 誠 先生 (越谷市 越谷サンシティ)	
3月			

事務局メモ

ホームページ会員専用ページ 入室は URL <http://www.saitama-vmc.org/>
ID: SVMA (半角・大文字) パスワード: MITSUO (半角・大文字)

令和7年	5月25日	さいたま市支部総会(さいたま市ホテル ブリランテ武蔵野)
2月14日 日本獣医内科学アカデミー学術大会(東 ~16日 京都千代田区 東京国際フォーラム)	5月26日	西支部総会(紫雲閣東松山)
2月16日 第3回関東・東京合同地区理事会(群馬 県高崎市 エテルナ高崎)	6月2日	埼玉県獣医師会第77回定時総会(予定: さいたま市 ホテルブリランテ武蔵野)
2月16日 西支部学術講習会(川越市 川越市南文 化会館)	6月25日	日本獣医師会第82回通常総会(東京都港 区 明治記念館)
2月19日 北支部学術講習会(Web開催)	7月6日	第2回関東・東京合同地区理事会・幹事 会(山梨県甲府市 山梨県農済会館)
2月23日 東支部学術講習会(越谷市 越谷サンシ ティ)	7月11日	全国獣医師会事務事業推進会議(東京都 港区 明治記念館)
3月9日 東支部旅行 ~10日	8月3日	北支部研修会・納涼会(場所未定)
4月13日 第1回関東・東京合同地区理事会・幹事 会(山梨県甲府市 山梨県農済会館)	9月7日	関東・東京合同地区獣医師大会・三学会 (山梨県甲府市 アピオタワー館)
5月18日 南支部総会(さいたま市 浦和ワシント ンホテル)	11月14日	全国獣医師会基調会議(東京都港区 明 治記念館)
5月21日 北支部総会(埼玉グランドホテル深谷)	11月15日	動物感謝デー in JAPAN(東京都台東区 上野恩賜公園)
5月25日 東支部総会(越谷市 越谷サンシティ)		



ミルクが出ない



太りすぎ



卵が少ない

そんな悩みを

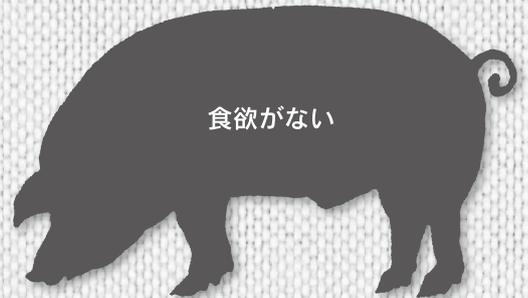
わかっていてくれる。



治りが遅い



高齢化



食欲がない

アクティは大切な動物の健康をサポートします。

私共、アクティ動薬事業部は、動物病院ならびに

牛、豚、鶏などの産業動物を対象とした

動物用医薬品、特別療法食、医療機器等の販売をしています。

20世紀は抗生物質の時代、

21世紀は生菌製剤の時代といわれるように、

健康に関する考え方も大きく変化してきています。

私たちは、獣医療を支えている関係者、畜産農家、

ペットオーナーの皆様方と共に、健康で、豊かで、安心な

生活を営んでいけるように、力を注いでまいります。

本社・長野県営業部

〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村8228

TEL:0263-87-7247 FAX:0263-87-7247

北関東営業所

〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井870

TEL:0270-65-0552 FAX:0270-65-0553

さいたま営業所

〒338-0004 埼玉県さいたま市中央区本町西5-3-24

TEL:048-611-6111 FAX:048-611-6116

千葉営業所

〒260-0851 千葉県千葉市中央区矢作町243

TEL:043-308-0221 FAX:043-308-0223

茨城営業所

〒311-4152 茨城県水戸市河和田1丁目1642-1

TEL:029-306-8271 FAX:029-251-3880

山梨営業所

〒409-3863 山梨県中巨摩郡昭和町河東中島1599-4

TEL:055-275-5573 FAX:055-275-5564

編集後記

日本海側や東北・北海道では大雪に見舞われ、関東では寒い日が続いております。

今シーズンの鳥インフルエンザに関しては、令和6年10月17日に国内1例目が確認されて以来、令和7年2月1日までの間に、14道県51事例が発生し、934万羽が殺処分されています。防疫作業に当たられた先生や遠方まで応援に行かれた先生には改めて労いの言葉をおかけしたいと思います。

毎年この時期になると卵の値段が上昇し、家計に大きな影響を与えています。これは日本に限ったことではありません。政権が変わったばかりのアメリカでは、卵の価格が上がっていると指摘されたキャロライン新報道官が、「卵の価格は65%値上がりした。卵に関しては前政権が1億羽以上の鶏大量殺処分を指示したことが原因の一つです。」と答えたというのがニュースになっていましたが、この指示は世界的な取り決めの中でなされたことです。

皆さんは日本をはじめとする183の国と地域が加盟するWOAH(国際獣疫事務局)という名前をご存じだと思います。WOAHは、1924年にフランスのパリで発足した、世界の動物衛生の向上を目的とする政府間機関です。動物衛生や人獣共通感染症に関する国際基準の策定等を行っています。WOAHは、1. 世界で発生している動物疾病に関する情報を提供すること。2. 獣医学的科学情報を収集、分析及び普及すること。3. 動物疾病の制圧及び根絶に向けて技術的支援及び助言を行うこと。4. 動物及び動物由来製品の国際貿易に関する衛生基準を策定すること。

5. 各国獣医組織の法制度及び人的資源を向上させること。6. 動物由来の食品の安全性を確保し、科学に基づきアニマルウェルフェアを向上させること。を目的としています。世界の貿易は自由貿易ですが、WOAHの勧告に従って例外を設け一定のルールの下で運用されています。畜産物に関しては、海外悪性伝染病の清浄国は、その清浄性を維持することによって汚染国からの輸入を拒否し、国内の家畜の健康を守ることを是とされています。これによって国内の畜産業も守られます。そのため、特定の伝染病発生時に、清浄国はその清浄性を維持するために家畜の殺処分に対応します。ワクチン接種は常在国と見なされるので選択されません。しかし、アニマルウェルフェアによって飼育動物のQOLを向上することを推進しながら、一方で殺処分をすることが相反することだと考え、殺処分に疑問を唱える人が世界中に存在します。

先日の公益社団法人日本獣医師会年次大会では鳥インフルエンザワクチンの開発状況などの発表もありました。現在世界の清浄国は衛生対策で解決できるとの考えで対策を進めています。飼養衛生管理基準の徹底に加え鶏舎をウインドレス化してフィルターを通した空気を使用するなどです。しかし、もし将来にわたりどんなに対策をしても渡り鳥の飛来によって感染を防ぐことができないとなった場合、世界はどのような解決策を見出すのでしょうか。ワクチン開発への試みが解決策を暗示しているように思う次第です。(燕雀)



日本獣医師会・獣医師会活動指針

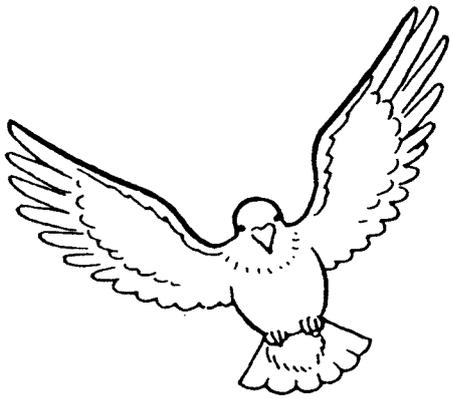
－ 動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。－

- 1 地球的課題としての食料・環境問題に対処する上で、生態系の保全とともに、感染症の防御、食料の安定供給などの課題解決に向け、「人と動物の健康は一つと捉え、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会の実現につながる。」との考え方（One World-One Health）が提唱され、「人と動物が共存して生きる社会」を目指すことが求められている。
- 2 一方、動物が果たす役割は、食料供給源としてのほか、イヌやネコなどの家庭動物が「家族の一員・生活の伴侶」として国民生活に浸透するとともに、動物が人の医療・介護・福祉や学校教育分野に進出し、また、生物多様性保全における野生動物の存在など、その担うべき社会的役割は重みを増すとともに、一層多様化してきている。
- 3 他方、国民生活の安全・安心や社会・経済の発展を期する上で、食の安全性の確保や口蹄疫、トリインフルエンザ、狂犬病等に代表される新興・再興感染症に対する備えとともに、家庭動物の飼育が国民生活に普及する中で動物の福祉に配慮した適正飼育の推進が、更には、地球環境問題としての生物多様性の保全や野生鳥獣被害対策を推進する上での野生動物保護管理に対する関心が高まってきている。
- 4 我々、獣医師は、「日本獣医師会・獣医師倫理綱領－獣医師の誓い－95年宣言」が規定する専門職職業倫理の理念の下で、動物に関する保健衛生の向上と獣医学術の振興・普及を図ること等を通じ、食の安全性の確保、感染症の防御、動物疾病の診断・治療、更には、野生動物保護管理や動物福祉の増進に寄与するとの責務を担っている。
- 5 獣医師会は、高度専門職業人としての獣医師が組織する公益団体として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進する。

【参 考】

「One World-One Health」とは、動物と人及びそれを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、獣医療をはじめ関係する学術分野が「ひとつの健康」の概念を共有して課題解決に当たるべきとの考え。2004年に野生生物保全協会（WSC）が提唱した。また、国際獣疫事務局（OIE）は、2009年に「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」に関する勧告において、動物の健康、人の健康は一つであり生態系の健全性の確保につながるとする新たな理念として「One World-One Health」を実行すべきである旨を提唱している。

彩の国



さいたま

